

## 第二章：旧市街の都市空間とコミュニティ

この章では、マッサ・マリッティマの歴史的都市空間について述べていく。旧市街の都市空間における形態的な構成と、長年受け継がれてきた伝統的なコミュニティについての関係性を描いていくものである。

### 2-1 歴史的な地区分け

#### ■地区を意味する言葉

イタリアの歴史ある都市には、いずれも伝統的な地区分けがあり、近代的な流れのなかでも抹消されず、現在においてもそのアイデンティティがしっかりしているのが特徴だ。

イタリア語で地区を指しているとき、一般的に「クアルティエーレ quartiere」という言葉が使われるが、それは歴史的地区が四つに分かれていたことに基づき、「クアルト(四分の一)」という言葉から派生しているからである。有名などころではイタリア北部ヴェネツィアの「セスティエーレ sestiere」(六分の一を意味する「セスト」から)、珍しい例では、同じイタリア中部トスカーナ州のコルトーナで「クインテーレ quintere」(五分の一を意味する「クイント」から)というのがある。

さて、マッサ・マリッティマの場合は、その数は3である。歴史的に3つの地区に分かれており、三分の一を意味するテルツォから、各地区は「テルツィエーレ terziera」と呼ばれる。複数を指しているときには、「テルツィエーリ terzieri」となる。

#### ■テルツィエーレの領域

マッサ・マリッティマの旧市街は、「チッタヴェッキア Cittavecchia」、「チッタヌオーヴァ Citanuova」、「ボルゴ Borgo」という3つの地区、「テルツィエーレ」に分かれている。コムーネ同様、テルツィエーレもまた、それぞれの紋章を持っている。

第1章でも触れたように、城壁で分けていくと、チッタヴェッキアとボルゴは一つにまとめられてあまり区別が無いような感じがあって、実際、明確にテルツィエーレを示している地図は見つからなかった。けれども、この通りはどここのテルツィエーレに属する、ということをはっきりしており、それらをもとに、領域図を作成した。

トスカーナ州の旧市街をいろいろと見ていくと、地区の分け方がそれぞれ異なるのであるが、マッサ・マリッティマの場合には、非常にわかりやすい。西向きに斜面に形成されたもっとも古いのがチッタヴェッキアで、言語的にも「旧市街」を意味している。ボルゴは、田園部への街道沿いにできた周辺の地区である。「ボルゴ」という言葉そのものが、そのような形態のエリアを表すものである。

一方、チッタヌオーヴァは「新市街」を意味しており、中世の都市の成長期に形成され

た地区である。他に都市で「チッタヌオーヴァ」というと、旧市街に対する新市街を意味し、近代の地区を指すのであるが、マッサ・マリッティマの場合には、主に旧市街の中のテルツィエーレを指している。近代の都市拡張としては、この高台のチッタヌオーヴァより外側へ、20世紀以降に新市街が発展していった。イタリアの都市の中でも、中世の城壁と都市構造が非常によく保存されている希少な例である。

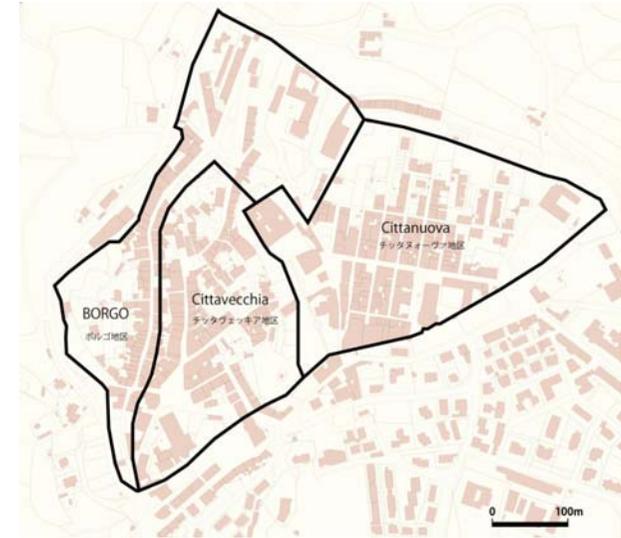


図 2-1 テルツィエーリの領域概要 ※筆者作成



図 2-2 マッサ・マリッティマのコムーネと各テルツィエーレの紋章